

野外誕生日会 in バッタバン州 郁文館夢学園様との交流



バッタンバン州が一望出来る山の頂上



たくさんのオブジェのある公園

入園する前の子どもたちは、それぞれ貧しい暮らしを送っていましたが、今はたくさんの方のご支援のおかげで、衣食住の整った環境の中で安定した生活を送ることができています。

開園から約10年、当時8歳だった子どもは18歳になりました。子どもたちが園の環境に慣れた今、生まれる課題もあり、子どもたちが今求めていることは何かを考えます。

勉強が得意な子もいれば苦手な子もいる、修理が得意な子もいれば、人の話をしっかり聞くことのできる子もいる、1人ひとり持っている能力は異なります。

その能力を見つけ、活かし、磨くことが出来るように、園にいるからこそ出来ることは何かを考え、1人ひとりに合わせた関り方が今後の大きな課題だと思います。

初の試み 野外誕生日会

誕生日会は月に1回開催され、誕生日者に洋服のプレゼントを渡し、皆でビデオを見て、歌を歌い、お菓子を食べるという内容でした。

毎回誕生日会の様子を見ていて、プレゼントされている洋服は必要なのか、お祝いされる子どもたちにとって、本当に嬉しいイベントになっているのかと疑問に思いました。

子どもたちに本音を聞くと、洋服はたくさんある、飽きてしまっている子もいるということがわかり、イベント委員会と一緒に子どもたちが喜ぶことをしようと考えました。遠足ではまだ行ったことのない、見所がたくさんあるバッタンバン州に行き、誕生日会を開こうと決めました。

湖のある広場で遊んだり、山に登り景色を楽しみました。夕食のレストランにて、誕生日者を皆で祝福、皆でグラスを持って乾杯しました。そこで見た子どもたちの笑顔は、園の誕生日会では見ることのできない輝きがありました。

時代は常に変化しています。イベントもそうですが、常に今の子どもたちにとってということを考え計画する必要があると思いました。



レストランで誕生日会

郁文館夢学園様と交流

毎年恒例、今年も郁文館夢学園の生徒さんが来園され、園の子どもたちと交流をして下さいました。

子どもたちに「日本の料理を食べさせてあげたい」という生徒さんたちの思いで、カレーを一緒に作ったり、共同で色とりどりの手形を集めたタペストリーを作成をしました。去年に比べると、今年は自由で元気のあふれた作品になりました。他にはバレーボールやバスケットボール等のスポーツをして一緒に汗を流したり、英語で会話をし、お互いについて良く知ったりと、思い思い充実した時間を過ごすことが出来ました。

また今回は、私たちの活動をより知っていただくために活動概要や、園での子どもたちの生活、仕事で苦労したことや、やりがいについてお話をする機会をいただきました。

子どもたちは生徒さんたちが来ることをいつも心待ちにしている、生徒さんの中には毎年来て下さる方もいて、子どもたちとの絆は年々深いものになっていると感じました。

交流を通して、異なる国で暮らす同世代の子どもから、たくさん刺激を受けてほしいと思います。

今後の交流もよりよいものにし、かけがえのない時間を一緒に過ごし、郁文館夢学園様と夢追う子どもたちの家が、ずっと繋がっていくことが出来るようにと願っています。

たくさんの仕事を知ろう

子どもたちの夢で多いのは医者、先生、警察です。しかし、その理由を聞いても答えられる子どもは少なく、それは身近な職業しか知らないということが原因だと思います。

世の中には様々な職業があるということをまず子どもたちに知ってもらい、自分が本当になりたいものを見つけ、夢中で追いかけてほしいです。そのきっかけとして社会科見学を実施したり、園にさまざまな仕事をしている方を招待し、お話を聞かせていただく機会を作っています。

ホン・チャンター（高3・女）の夢は作家で、補習教師の先生から、現在作家として活動している以前の教え子がいると紹介していただいたり、社会福祉関係のNGO団体で働く職員の方や、ポーサット州でしょうが工場を持っておられる Arix cambodia 様を招待しお話をいただきました。

経歴、今の仕事に就いたきっかけ、仕事内容、大変なこと、働く喜びなどを話していただきました。それだけではなく、卒業試験や大学入試などの進路についてのアドバイスもしてくださいました。子どもたちが本当になりたい夢を懸命に追いかける姿を私たちは応援していきます。



パエ・ソップル(小1)初めてのカレーに笑顔



英語で頑張って伝えます



最後はみんなでボディペイント



作家として活躍している方からのお話